



SINCE 1901 感謝と希望を
日本女子大学・創立100周年

図書館だより

目次

イギリスの公共図書館	——出渕 敬子	1
「今、学生にすすめる本」特集（その10）		
——尾林 道子	佐々井 啓	2
白石 美鈴	ゾートン不破直子	
磯前 順一	久東 光代	3
于 保田	関口 文彦	
ローマでの西村圭子先生	——村井 早苗	4
一緒にまいりましょう	——上村美紗子	5
日本女子大学創立100周年記念特別展示		
《21世紀の教育をひらく》		
女性史をひらく 本学図書館所蔵の貴重図書より		7
ようこそ、日本女子大学図書館へ！	——橋本 香織	10
図書館からのお知らせ（目白・西生田）		12
図書館事務室より		



西生田図書館の正面

イギリスの公共図書館

出渕 敬子

今朝、新聞を開くと、文化欄の「公立図書館 予算削減で四苦八苦」という見出しが目に入った。反射的に、最近読んだT. ケリー夫妻の名著『イギリスの公共図書館』(*Books for the People*)を思い出した。本や図書館の歴史に興味がある者にとっては、これはイラストレーションの素晴らしさとあいまって、なんとも魅力に溢れた本である。中世からルネッサンスを経て18世紀のジェントルマンや労働者の図書館に至る前史がまず楽しい。続いて1850年の公共図書館法成立以後の歴史を読むと、この本が単なる図書館史ではなく、図書館のありようの変革を通して、イギリス社会の変化が透けて見えてくる。公共図書館に限られた人々のためのものから、あらゆる階級、職業、年齢、性別の地域の人びとのための図書館として開かれてゆく過程は、都市、町、村の図書館の個別的記述でありながら、普遍的な理想の公共図書館をめざす大きな流れが読み取られる。

とりわけ興味深いのは、19世紀末から20世紀にかけての公共図書館の変化である。19世紀半ば、公共図書館は労働者の禁酒と勤勉を奨励し社会改良することを目的としてつくられた。1852年マンチェスター公共図書館の開館式にサッカー、B. リットン等と招かれたチャールズ・ディケンズは、こう言った「このようにして利用可能となった図書は、わが国の最も貧しい人々の小屋、屋根裏部屋および地下室での、楽しみと向上の源であることが証明されるであろう」。「無料図書館」とも呼ばれた19世紀の公共図書館は多分に慈善的性格を持ち、社会改良の一手段でもあったのだ。

しかし実際には、当時から利用者には職人、事務員、店員などのロウアー・ミドル・クラス、医師、商人、会計士、工場主、教師など専門職を含むミドル・クラスの人びとがいた。女性は利用者の2割位で、所によっては婦人閲覧室が置かれていた。利用者の中には明るさ、静けさ、暖かさを求めて図書館に来る貧しい人びともいた。人気があった図書はフィクション、歴史、伝記、旅行記、科学や技術の本などであった。ある図書館での人気作家にはディケンズ、カーライル、ラスキン、T. B. マコーレーなどが含まれ、読書レベルの高さを窺がわせる。

また1870年代頃から大学拡張運動と連携して、公共図書館が教育機関の役割を果たすことが盛んになり、文学、歴史、音楽、美術、科学などの講演会が図書館で開かれ、演劇の朗読も行われた。聴衆にはミドル・クラスが多く、高等教育の機会に乏しかった女性が大勢含まれていた。このようにイギリスの公共図書館は地域の「知的生活の中心」として少年少女を含む市民の生活を楽しく精神的に充実したものとするべく、努力と工夫を重ね、今日公共図書館の模範とされるサービスを行っている。再び今朝の新聞に戻ると、書評欄に『まちの図書館で調べる』という多摩地区の公立図書館員の方々が編集した本が取り上げられていた。公共図書館の利用法を広めてくれる喜ばしいニュースである。

「今、学生にすすめる本」特集（その10）

尾 林 道 子（住居学科助手）

服部真澄著 『骨董市で家を買う』 中央公論社 1998年

最近、民家の再生・移築や古材を使ったインテリアを至る所で目にします。この本は、そんな風潮に先駆けて古民家を移築し、自邸を手に入れた作家・服部真澄夫妻の「家づくり奮闘記」です。骨董市で家など買えるものなのか？と思いながら読み進めると、そこには良い家づくりを夢見る著者（施主）、骨董商、建築家、工務店、棟梁の情熱が生み出す新たな家づくりの形がありました。移築ならではの手間による工期の大幅な遅れ、予算オーバーなど様々な問題を抱えながらも最後までこだわりを捨てなかった著者。築100年の民家と現代の生活の融合策に取り組む姿勢は、民家の知恵や工夫、技術を生かしつつ現在の環境に合わせてゆくことの難しさを提起する一方で、家づくりとはこんなにも学ぶべきことが多く、人を生き生きとさせるものなのかと改めて感じさせます。歴史、文化、建築、インテリア、骨董、工芸など、幅広い観点から家づくりを捉えられる本です。

佐々井 啓（被服学科教授）

三井秀樹著 『美のジャポニスム』 文春新書 1999年

日本の伝統的な建築、絵画、工芸品に興味を持っている人は多いことと思います。それに加えて、旅行やテレビなどで海外の美術にも深い知識や憧憬を持っている人も多いでしょう。『美のジャポニスム』は、日本人が持っていた美意識が造形的な美しさとして、欧米の美術に大きな影響を与えていった過程を、分かりやすく解説しています。特に19世紀末のリバティープリントや20世紀初頭のアール・ヌーヴォーの芸術は根底に日本の美意識があるからこそ、今日の日本人にも好まれる芸術であり、また生活用品としての家具や道具、ポスターなどのイラスト、室内装飾やドレス用の布地が身近かに感じられるのです。難しい美の理論ではなく、多くの作例をふまえたわかりやすい内容は、時代の雰囲気を知って楽しく読める好書です。

白 石 美 鈴（日本文学科助手）

小峯和明著 『中世説話の世界を読む』（岩波セミナーブックス69）岩波書店 1998年

帯の「説話は世界の喩！」が、説話の魅力を雄弁に物語る。第一章「説話のかたちをつかむ」では、研究状況の概要、説話とは何かと生まれる過程を「場」の問題をとらえて説く。第二章「説話に時代を読む」では、後鳥羽院をめぐる天狗と怨霊を中心にその時代を人々がどう意識していたのか、第三章「説話のイメージ・シンボルをさぐる」では、事件や人物に焦点を当てる従来の読みではなく、物、動物、植物、道具等モノを通して説話を読み直し、「蝙蝠」「瓜」をモノの世界の意味、象徴、シンボルの面から解明する。第四章「説話に宇宙をみる」では、物の変化・変身・転生や須弥山の世界の問題を生命や世界観のありようが説話世界と深く関わると説く。中世時代は、説話に見える世界、宇宙から何が見えてくるかが躍動していた時代ととらえ、本書は、研究の最前線をふまえつつ、中世説話を深層や背後で支える世界を多面的にとらえてその広がりや深さを復元する。何よりも、本書により説話を読むおもしろさを味わってほしい。

ソートン不破直子（英文学科教授）

谷川俊太郎著 『谷川俊太郎詩集』 思想社 1993年

映画と本が根本的に違う所は、前者は見る者の理解に関係なく進行するが、本は読者の感受性と理解に従って速度を変えることだ。だが読者が支配しうるその時間の中では、読者は著者の感性と知性に完全に服従し、著者と一体となって生きる。この不思議な支配と服従の融合が読書の喜びなのだ。谷川俊太郎の18歳の作である処女詩集『二十億光年の孤独』と『六十二のソネット』は、若者が将来への不安と自信を反芻している言葉にあふれている。谷川の詩にある、きっと自分を分かってくれる存在が宇宙のどこかにいるはずだ、という奇妙な自信に満ちた期待は、昔米国に留学中、勉強のプレッシャーと孤独で負けそうになる私の気持ちにぴったりで、よくこれらの詩を読んで、彼の甘美な孤独を私も生きたものだった。著者と二人での孤独の連帯感を経験をすると、本がある限りあなたの一生にひとりぼっちの孤独なんてないことが分かりますよ。

磯 前 順 一 (史学科助教授)

マックス・ピカート著 佐野利勝訳 『沈黙の世界』 みすず書房 1964年

喧騒に取り囲まれた現代の生活。言葉はメディアを通じて溢れかえり、私たちは静寂を避けるように饒舌に喋る。それに対し、この本は言葉と沈黙は対をなすものであり、「もし言葉に沈黙の背景がなければ、言葉は深さを失ってしまうであろう」と、沈黙に支えられることで、その存在感をもちうるのだと説く。言葉は決して万能なものではない。私たちは自分の想いを十分に他人に伝えることなどでできず、もどかしさのなかで、とぎれとぎれの言葉を口にするだけである。このような無力さをねじ伏せようとして、現代の言葉は人を威圧するような暴力的なものとなる。しかし、沈黙は私たち自身の内部に宿るものであり、そこから逃げ切れることなどではしない。むしろ、言葉のはかなさを引き受けたときにこそ、言葉は寡黙さに裏づけられた強靱さをもつものとなる。闇の深さのなかで、光がその輝きを増すように。

久 東 光 代 (心理学科講師・西生田コンピュータセンター研究員)

高野豊著 『rootから/へのメッセージ スーパーユーザーが見たひととコンピュータ』

アスキー出版局 1991年

インターネットが盛んに利用されていますが、皆さんは、その仕組みを支えるシステム管理者の存在を、普段どれほど意識しているでしょうか。この本では、UNIX OS技術の達人である著者が、多くの一般ユーザが利用するUNIXサーバのroot (マシンやユーザに対する全管理権限を持つスーパーユーザー)として、システム管理の裏側を冷静かつリアルに描いています。rootは、技術に走る“オタク”と思われがちですが、実際は、各ユーザが快適に平等に信頼を持ってサーバを利用できるよう、昼も夜も、悩み、戦い、追跡し、守り、学び、教えることに奔走しています。時に、サーバ室に入り込んだ1匹のネズミを追いかけることさえあります。システム管理は、ネットのむこう側の多くのユーザと向き合える、実に人間らしい仕事です。皆さんも、自分の学業や仕事に誇りと情熱を持つ素晴らしさ、人と向き合いながら奮闘し挑戦できる楽しさを、ぜひ実感して下さい。

于 保 田 (文化学科教授)

江上波夫著 『騎馬民族国家』 中公新書 1967年

宮崎市定著 『水滸伝』 中公新書 1972年

今回、私が推薦する図書は、著者が考古学および文学史という角度から、どのように研究していくかを解いた書物であり、一から研究をスタートする者にとって、啓蒙書として位置づけることができる。このところ、学生諸君のレポート・論文を読むと、著者からの書き写しが目立つ。書物は新たな見解を見出す上での手段であると認識してほしい。この二冊の推薦図書は研究方法を論じた優れた書物である。『騎馬民族国家』は、日本国家の形成に、騎馬民族が大きな役割を果たしたことを詳細な資料のもとに建設的に解明しており、論文作成に取り組む学生諸君にとって良い手本になるはずである。『水滸伝』は、元々文学作品であるが、中国歴史、思想を知る上で、読者に貴重な資料を提供している。

関 口 文 彦 (物質生物科学科教授)

ジャック・モノー著 渡辺格・村上光彦訳 『偶然と必然』 みすず書房 1973年 (第4刷)

ここに紹介する本は、あなたの何かを触発してくれる本といえます。著者は1961年ジャコブとともに、DNAの遺伝子情報発現に関するオペロン説を提唱し、1965年にはノーベル賞の荣誉に輝いたフランスの分子生物学者です。著書では「生物とは何か」を分子の世界から説き明かし、「現代生物学のあるべき姿とは」を物語っています。注目されたのは、「進化の要因は不変な情報がマクロ的な偶然の攪乱を受けることにあるとし、偶然によってもたらされた情報が保守的なプロセスにより取り入れられ、さらには忠実に再生・翻訳され、その後、マクロな自然の選択を経て必然のものとなる」という合目的なもの捕らえ方(思想)です。その上で、「科学者は現代文化全体の中で、自分たちの学問を考え、技術的に重要な知識思想によって、現代社会を豊にしなければならない」と著者は説いています。古典と思われがちですが、一読をおすすめします。

ローマでの西村圭子先生

村井早苗



カラカラ浴場（ローマ）での西村先生

1999年3月に本学を退職された西村圭子先生は、同年9月20日に研究のためにローマに出発された。学生時代よりご指導をうけ、先生の後任として着任した私にとって、とても心細いことだった。しかし先生は滞在先にファックスを備えつけられ、先生と私の間で度々ファックスが交換されることになった。先生よりのファックスは16通に及び、それらは私の宝物になった。先生からのファックスによって、ローマでの先生のご様子を偲んでみようと思う。

1999年10月17日付けで第1回のファックスが届いたが、この時は先生のファックスの調子が悪かったようで「FAX OKとは出ましたが、どうも音がおかしいので……」と記されている。そして日本との時差が、10月末に7時間（サマータイム）から8時間になる旨が伝えられた。その後11月下旬に一時帰国された先生は、12月中旬にローマに戻られた。そして2000年新春のファックスには「さて、'99年から2000年への移行期についてはそちらのTVでも放映されたと思います。感動・感激、最高の幸せを味わいました。ほとんど連日連夜パチカン詣でした」とある。先生は2000年末に帰国されたのだから、1999年と2000年（ミレニアム）の2度のクリスマスをお祝いされたのである。2月20日、愚息がヨーロッパに卒業旅行に行き、ローマで先生をお訪ねし、中華料理をご馳走になった。早速「ご令息は大変にお元気でしたよ」とのファックスをいただき、母親としてはとてもうれしかった。6月7日付のファックスによると、5月末から8日間ギリシアに旅行された。「日やけしてしまいました。すばらしいところでした」と記されており、院生たちと「顔黒（がんぐろ）の西村先生なんて想像できない」と言いあった。7月1日付では「こちらは大学は6月はじめからお休みとなり、その他ヴァチカンの図書館・文書館はお休みで9月半ばまで閉館です。私は来週17日から月末まで、ドイツ・オランダ旅行に出ます」とあり、夏休み中にヨーロッパ旅行を楽しまれたことがわかる。

9月18・19日、私はローマに先生をお訪ねした。サンピエトロ寺院やイエズス会本部・文書館近くの、すてきなお住居だった。一緒にした2日間は、今ではかけがえのない思い出になってしまった。ローマに来て、その雰囲気を知るだけで意味があるとおっしゃった先生のお言葉は、本当にその通りだと思う。素晴らしい歴史遺産が点在し、それが現在でも使用されている。例えば古代ローマのカラカラ浴場は今でも野外コンサートの会場となっているなど、歴史や文化の重さに圧倒された。一方で交通ルールはないに等しく、ポコポコになったベンツが走り、その傍らを馬車が通っていくというローマでの生活は、先生に多大な緊張を強いただろう。

10月下旬、先生はポルトガル旅行をされた。11月13日付には「ポルトガル旅行はたのしいものでした。17日からバルセロナへ出掛け、これをもって旅行を終え、いよいよ帰国体制にはいります」とある。そして12月9日、これが最後のファックスになったが「今“食べたいもの”のリストを書いていたのですが、それよりもパスポートなしでゆっくり“ねたい”と思います。何と素朴なことでしょう。やはり異国なのですね」とあり、また2001年3月末に再びローマに行かれる旨も記されている。

帰国されてからまもない2月にご母様が倒れられ、そのご看病で先生の再度のローマ行きは叶わないことになった。そして10月18日のあまりに早すぎのご逝去、先生のローマでの充実した、かつ大変だった日々を、今はもう何うこともできない。またローマでのご研究の成果も……。そのほんの一端を、いただいたファックスで再現してみた。私の個人的な思い出話に終始してしまっただが、ご寛恕いただきたい。先生のご冥福を、心よりお祈りしたいと思う。

（史学科助教授）

一緒にまいりましょう

上村 美紗子

どうなさいました？ ちょっとボタンが…。図書館玄関ホールの床のあたりをゆっくりと目で追うように立っておられる。数えきれぬほどの言葉を交わすことになる初めの一言ずつであった。

この半年後、図書館長に就任される。平成7年4月のことである。薄紫色のスーツに見覚えのあるボタンが揃っていた。…あの日の昼下り、気がつくと目白駅付近のボタン屋に居て、よく確かめもしなかった洋服の色に近いものを心をこらして6つ選び、同じ色の糸とそれに縫針を添え、留守の研究室にそっと置いたのだった。ボタンを欠かしてのあと半日はいかにもお気の毒に思えた……。

どの年も安息の日などはなかった。文献による調査研究をなによりも重視された西村先生が、学生一人ひとりに深く影響を及ぼす蔵書構成に注意を払われたことはいうまでもない。それまでの一教員としての利用者から、館長職に就くと同時に、開館時間の延長ほか図書館サービスの拡大に関する要望を、教員、学生自治会から受けることともなる。管理運営の立場と利用者の気持の間で一時は苦悩されるが、つねに理解を深くされて、一筋の結論へ導かれた。文学部移転後の跡を図書館へ拡張する方向性を、大学当局へ確約させた経緯の日々、図書館の現状を憂い、図書館の新生を強く求められた姿勢を忘れることはできない。残された者の心には、無為では許されぬ負いがある。

大事な2つの会議を控えた前夜半、救急車も呼べぬほど呼吸困難になり、3時間ちかく全身硬直状態に陥った。平成13年10月18日の午前1時前後のことである。一緒にまいりましょう、そう言われたと思った。どんな時にも、よく口にされた言葉である。今度ばかりは添いえなかった。合掌。

こう記してはみるが、まだどこかに居られるようで偲んでなどいられないと思う。とにかくこの拙文の目通しをお願いして、あの真っ赤になる直しを入れていただかなければならないのだから。

(図書館事務部長)



西村先生(左から2人目)と共に

西村圭子先生の主な著書・編集書

- ・『高等教育を受けた婦人の社会参加の環境に関する調査』 西村圭子、高橋たまき、亘理淑子ほか共著 大学婦人協会 1981 367.21 - Kot 目白・西生田図書館
 - ・『戦国人名事典』 阿部猛、西村圭子編 新人物往来社 1987 R281.03 - Sen 目白図書館
 - ・『戦国人名事典』(コンパクト版) 阿部猛、西村圭子編 新人物往来社 1990 R281.03 - Sen 目白・西生田図書館
 - ・『科学研究費補助金研究成果報告書 平成5年度一般研究C 十六・十七世紀戦国領主権力から成立期統一政権に至る日欧交渉展開過程の研究』 研究代表者西村圭子 日本女子大学文学部 1994 G081 - Kag - 40 目白図書館
 - ・『近世長崎貿易と海運制度の展開』 西村圭子著 文献出版 1998 678.21 - Nis 目白図書館
 - ・『女性群像』 西村圭子著 新人物往来社 1999 367.21 - Nis 目白・西生田図書館
 - ・『日本近世国家の諸相』 西村圭子編 東京堂出版 1999 210.5 - Nih 目白図書館
- * 「史艸(日本女子大学史学研究会)」第40号(1999.11)p1~p10〔西村圭子先生略年譜〕に、この他の著書・研究論文などについても詳しく掲載されています。

日本女子大学創立100周年記念特別展示 《21世紀の教育をひらく》 女性史をひらく - 本学図書館所蔵の貴重図書より

本学創立100周年を記念し特別展示が成瀬記念講堂で行われました。

展示は3期に分けられ、「掛け図にみる明治の理科教育」(第1期 平成13年12月8日～12日)、「女性史をひらく - 本学図書館所蔵の貴重図書より」(第2期 平成13年12月15日～19日)、「一つの彫刻から 成瀬先生胸像をめぐる - 制作者高村光太郎と写真でみる智恵子の紙絵」(第3期 平成14年1月15日～25日)の内容により公開されました。また期間中、学園の象徴として存在し、文京区の有形文化財に指定されている成瀬記念講堂を公開し、講堂の変遷を詳しく解説した「講堂 - その建築と変遷」と講堂で講演された多くの著名人を紹介した「講堂 - 歴史の中の人々」が常設展示されました。



特別展示中の成瀬記念講堂

図書館は、「女性史をひらく - 本学図書館所蔵の貴重図書より」をテーマに、1963年に元広島大学学長森戸辰男氏の寄贈による「森戸文庫」、そして女性解放史の原点であるメアリ・ウルストンクラフトの著作を展示、紹介いたしました。

成瀬記念講堂は建設当初(明治39年)「豊明図書館兼講堂」と称し、2階に書架が配され図書館として使用されてきました。100周年の年にかつての図書館で、女性に関する貴重なコレクションを展示し、ご覧いただけましたことはまことに意義深く存じます。展示期間中多くの方々にお越しいただきましてありがとうございました。

成瀬記念講堂は建設当初(明治39年)「豊明図書館兼講堂」と称し、2階に書架が配され図書館として使用されてきました。100周年の年にかつての図書館で、女性に関する貴重なコレクションを展示し、ご覧いただけましたことはまことに意義深く存じます。展示期間中多くの方々にお越しいただきましてありがとうございました。

森戸文庫

1963(昭和38)年4月より6月にかけて、日本女子大学図書館は、森戸辰男氏(1888～1984)より、その蔵書の一部を受贈した。

これらの受寄贈図書は、その内容のすべてが優れて婦人問題関係文献という点で特徴があり、英独仏の洋書を中心に、19世紀後半より20世紀初頭にかけての女性論、婦人運動、婦人生活に関わる約300冊ほどの文献である。その資料的価値は高く貴重である。

森戸辰男氏は、この年の4月に広島大学学長の要職を辞され、その後も、広く教育界で指導的な立場で活躍された。本学にゆかりも深い。

氏は、大正10年から12年にかけて、英独仏露へ留学、意欲的に文献を入手することに尽力専心された。とりわけ系統的に蒐集したのは、社会問題・社会政策、経済学などの文献であり、その中から婦人問題関係分野のものを選びすぐり本学に寄贈されたのである。社会科学文献の珠玉の宝庫とされるこれら蔵書の大部分は、森戸文庫と称されて広島大学に遺され、この文庫の根幹をなしている。

森戸氏は、その遺愛本ともいえる蔵書を、種々の教育・研究機関に分与したものと推測される。本学受寄贈図書は、洋書168冊、和書131冊と、今日では、到底入手し難い貴重なものが揃っており、広島大学の約6000点の偉容に次ぐものである。おそらく、本学が女子高等教育機関として果たしてきた史的な実績を高く評価し、将来もまたそうあるべきことを期待しての寄贈とも受けとめられる。

主なる収容分野は、和書では、明治期に見られる女性史、婦人運動史、大正期の婦人労働、婚姻問題、昭和期戦前の性、産児制限、婦人参政権に関するもので稀覯文献が含まれている。洋書では、婦人労働問題、女性擁護論、母性論、婦人解放論で、この分野の古典、名著の多くを擁している。



森戸辰男氏

(写真出典:「森戸辰男とその時代」森戸文庫研究会)

メアリ・ウルストンクラフトとその思想

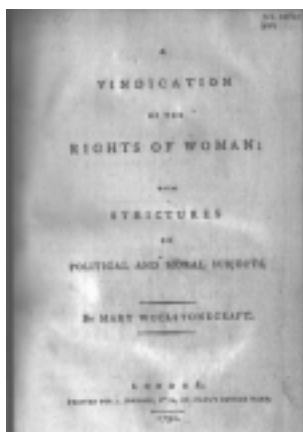
女性解放論の先駆者、メアリ・ウルストンクラフトは18世紀半ば、ロンドンの貧しい職人の街に住む織物業者の父と、アイルランド人の母のもとに生まれた。弱い母親に対する父親の横暴に胸を痛めた少女が、長じて親友と学校創設を計画し、アメリカの若い企業家との恋愛・結婚に破れ自殺（未遂）を試み、フランス革命を目撃し、イギリスの急進的思想家との型破りで幸せな結婚生活も束の間、娘を出産後急逝するという波乱万丈の生涯を送ることになるとは、誰が想像しただろうか。

彼女は38年の短い生涯の最後の10年間に12冊の著・訳書を残した。その中でも『女性の権利の擁護』は、イギリスにおける女性解放の明確な第一声ともいえるものである。この著書は、フランス革命がイギリスに波及することを怖れたエドモンド・パークが書いた『フランス革命の省察』（1790）の保守主義に反発して書かれた『人間の権利の擁護』に続いて、その2年後に出版された。しかし直接の動機は、革命時にタレイラン＝ペリゴールが書いた『公教育に関する報告』（1791）によるもので、彼が教育における男女の平等を認めながらも、女性の教育は8歳までに終わり、その後は家庭に入って社会的関心は持つべきではないと述べたことに刺激され、反論したのである。

メアリの女性解放思想は『女性の権利の擁護』に集約されている。彼女は女性をまず人間という観点から考え、因襲的女性観を排し、知的、道徳的存在として、教育によって理性をもつ女性を育てる必要を説いた。彼女が思考の対象としたのは、主に中産階級的女性だったが、その思想はその後の女性解放運動がめざした多くの普遍的な問題を驚くほど先取りしている。

たとえば、法の前の男女平等、教育の機会均等、経済的自立、婦人参政権、服従と不平等のない婚姻、女性に対するさまざまな社会的偏見や差別の除去などである。しかし幼児期の惨めな家庭生活の体験から、女性の妻、母としての役割や家庭的愛情を重視する一面を持ち合わせていたことも忘れてはならない。

このようなメアリを育てたのは、フランス革命の思想的原動力でもあった啓蒙思想であり、直接的には彼女の著書の出版社主でもあったロンドンのジョゼフ・ジョンソンを中心とする急進的知識人グループ（急進思想家トマス・ペイン、詩人ブレイク、画家フュースリ、プライス牧師を含む）であった。彼らに共通しているのは、理性を尊重し、万人が自由・平等・平和を享受することを望むことであった。メアリの女性解放思想は、個人的体験と政治・経済・社会を含む18世紀後半の歴史の流れとの接点から生まれたと見ることができる。



『女性の権利の擁護』初版本



Mary Wollstonecraft

<メアリ・ウルストンクラフト略年譜>

- 1759年 4月、ロンドンで生まれる
- 1783 24歳 親友ファニィと学校を始める
- 1787 28 文筆活動を開始、『女子教育考』を発表
- 1790 31 『フランス革命の省察』の著者パークへの反論の書『人間の権利の擁護』を出版
- 1792 33 主著『女性の権利の擁護』出版
- 1796 37 『北欧通信』出版
- 1797 38 思想家ウィリアム・ゴドウィンと結婚
 女兒（のちの『フランケンシュタイン』の著者メアリ・ウルストンクラフト・シェリー）を出産、
 11日後に不帰の客となる

森戸文庫展示図書目録

- 愛国婦人会史編纂所 愛国婦人会史 大正2 (1913)
 青山霞邨 英国の青鞥女 - ブロンテー女史 敬文館 大正2 (1913)
 伊賀駒吉郎 女性大観 和泉正太郎 明治40 (1907)
 石原 修 衛生学上ヨリ見タル女工之現況 国家医学会 大正2 (1913)
 市場鴨村 売笑婦研究 巖松堂書店 明治45 (1912)
 岩野泡鳴 男女と貞操問題 新潮社 大正4 (1915)
 大内兵衛 婦人の経済学 岩波書店 昭和28 (1953)
 奥むめお 婦人問題十六講 新潮社 大正14 (1925)
 九岐 晰 妻妾百本針 思誠堂 明治13 (1880)
 ケイ, エレン 婦人と道德 本間久雄訳 南北社 大正2 (1913)
 ケイ, エレン 母性の復興 らいてう訳 新潮社 大正8 (1919)
 ケイ, エレン 恋愛と結婚 原田実訳 天佑社 大正11 (1922)
 後藤静香 女教員の真相及其本領 洛陽堂 大正6 (1917)
 ゴルトマン, エマ; ケイ, エレン 婦人解放の悲劇 伊藤野枝訳 東雲堂書店 大正3 (1914)
 堺 利彦 婦人問題の本質 無産社 昭和5 (1930)
 スパッサ, ハーバート 女権真論 井上勤訳 思誠堂 明治14 (1881)
 高群逸枝 女教員解放論 自由社 昭和6 (1931)
 高群逸枝 女性二千六百年史 厚生閣 昭和15 (1940)
 高群逸枝 大日本女性史 厚生閣 昭和13 (1938)
 高群逸枝 大日本女性人名辞書(増補) 厚生閣 昭和14 (1939)
 手島益雄 女子の新職業 新公論社 新婦人社 明治41 (1908)
 平塚雷鳥 円窓より 東雲堂書店 大正2 (1913)
 平塚雷鳥 現代の男女へ 南北社 大正6 (1917)
 福沢諭吉 女大学評論・新女大学 時事新報社 明治41 (1908)
 福沢諭吉 日本婦人論 時事新報社 昭和5 (1930)
 ベーベル, オーギュスト 婦人と社会主義 - 牧山正彦訳 弘文堂書房 大正11-13 (1922-1924)
 ベーベル, オーギュスト 婦人論 山川菊栄訳 平凡社 昭和3 (1928)
 細井和喜蔵 女工哀史 改造社 大正14 (1925)
 本間久雄 エレンケイ思想の真髓 大同館書店 大正4 (1915)
 望月 誠 女房の心得 兎屋誠 明治14 (1881)
 山川菊栄 女の立場から 三田書房 大正8 (1919)
 山川菊栄 現代生活と婦人 叢文閣 大正8 (1919)
 山川菊栄 婦人と無産政党 無産社 昭和3 (1928)
 与謝野晶子 我等何を求めるか 近田書店 大正7 (1918)
 与謝野晶子 人及び女として 近田書店 大正7 (1918)
 吉野作造 婦人問題 民友社 大正5 (1916)
 ラッポート, フリップ 社会進化と婦人の地位 山川菊栄訳 吉田書店 大正13 (1924)
 Bebel, August Die Frau und der Sozialismus. Dietz Nachf, 1910
 Bebel, August Woman in the past, present, and future. William Reeves, n.d. [19-?]
 Bebel, August Woman under socialism. New York Labor News, 1904
 Freders, Heinrich Obein Mann seine Frau zu schlagen berechtigt seh? Friedrich Ritter, 1736
 Key, Ellen Karolina Sofia The century of the child. Putnam [1909]
 Key, Ellen Karolina Sofia Die junge Generation. Georg Müller, 1913
 Key, Ellen Karolina Sofia Love and marriage. Putnam, [c1911]

- Key, Ellen Karolina Sofia Missbrauchte Frauenkraft. Fischer, 1911
Key, Ellen Karolina Sofia The morality of woman and other essays. Ralph Fletcher Seymour,[c1911]
Key, Ellen Karolina Sofia The renaissance of motherhood . Putnam, 1914
Key, Ellen Karolina Sofia War, peace, and the future. Putnam, 1916
Key, Ellen Karolina Sofia The woman movement. Putnam, [c1912]
Key, Ellen Karolina Sofia The younger generation. Putnam, 1914
Mill, John Stuart The subjection of women. 2nd ed. Longmans, 1869
Philosophie der Ehe: ein Beytrag zur Philosophie des Lebens für beyde Geschlechter. Bey Roch und Comp., 1800
Sandford. Mrs . John. Woman, in her social and domestic character. 6th ed. Longmans, 1839
Wollstonecraft, Mary Défense des droits des femmes. Chez Buisson, 1792

メアリ・ウルストンクラフト展示図書目録

〔著書〕

- Thoughts on the Education of Daughters. 1st ed. Johnson, 1787
A Vindication of the Rights of Men. 1st ed. Johnson, 1790
A Vindication of the Rights of Men. 2nd ed. Johnson, 1790
Original Stories from Real Life. 1st Blake illustrated ed. Johnson, 1791
A Vindication of the Rights of Woman. 1st ed. Johnson, 1792
A Vindication of the Rights of Woman. 3rd ed. Johnson, 1796
An Historical and Moral View of the Origin and Progress of the French Revolution; and the Effect it has Produced in Europe. 1st ed. Johnson, 1794
Letters Written During a Short Residence in Sweden, Norway and Denmark. 1st ed. Johnson,1796
The Female Reader. 1st ed. Scholar's Facsimiles & Reprints, 1980
Mary, a fiction. William Pickering, 1989
Posthumous Works of the Author of a Vindication of the Rights of Woman. 1st ed. 4vols. Johnson,1798
Letters to Imlay, with Prefatory Memoir by C.Kegan Paul. 1st ed. Kegan Paul, 1879
Godwin & Mary, Letters of William Godwin and Mary Wollstonecraft.
Edited by Ralph M. Wardle. 1st ed. University of Kansas Press, 1967

〔訳書〕

- Jacques Necker Of the Importance of Religious Opinions. 1st Dublin ed. Mills, 1789
M.G.Cambon Young Grandison. 1st English ed. 2vols. Johnson, 1790
C.G.Salzmann Elements of Morality. 2nd ed. 3vols. Johnson, 1792

〔邦訳〕

- 女性の権利の擁護 藤井武夫訳 上下巻 清水書院 1975
女性の権利の擁護 白井堯子訳 未来社 1980
女性の虐待あるいはマライア 川津雅江訳 あぼろん社 1997

〔伝記〕

- William Godwin Memoirs of the Author of A Vindication of the Rights of Woman. 1st ed. Johnson, 1798
メアリ・ウルストンクラフトの思い出 ウィリアム・ゴドウィン著
白井厚 白井堯子訳 未来社 1970

ようこそ、日本女子大学図書館へ！

～ ??? この図書館、どう使う ??? ～

新入生のみなさん、そしてこのページを読んでくださっているみなさん、こんにちは。今回はちょっとだけ、この図書館をご案内したいと思います。(ああっ！このページ飛ばそうなんて思わないでええ！泣いちゃいますよ、私。)

さて皆さん、「大学図書館？なんか、堅苦しい本が並んでそう。ま、試験のときに必要があれば、行ってみるかなあ。」と、片目で図書館を見ながら通り過ぎるなんて、もったいない！確かに、大学の図書館は皆さんが今まで目にしてきた、公共図書館などとはちょっと違います。でも、大学生活には無くてはならないもの。堅苦しく考えず、ちょっと覗いてみましょう。

☆ 図書館は、目白・西生田両キャンパスにあります！

- ・本学の学生・教職員・卒業生・その他の方も、利用資格をお持ちなら両方の図書館を利用することができます。館内を初めて訪れる際には、新入生に配布される各種利用案内のパンフレットを参考にしてください。なお、同パンフレットは、館内にもあります。

【目白図書館利用案内】

- 『図書館のしおり 目白版』
- 『日本女子大学利用案内 目白貸出と西生田相互利用』
- 『 “ ” 図書の探し方』
- 『 “ ” 雑誌と1階施設』
- 『 “ ” レファレンス・サービス(参考)』

【西生田図書館利用案内】

- 『図書館のしおり 西生田版』
- 『日本女子大学西生田図書館利用案内 1 貸出・施設・目白の図書館の利用』
- 『 “ ” 2 - 1 図書の探し方』
- 『 “ ” 2 - 2 図書のさがし方』
- 『 “ ” 3 逐次刊行物とAVコーナー』
- 『 “ ” 4 参考係(レファレンス・サービス)』

☆ これはNG！入館の時には注意して！

- ・図書館では、飲食物の持ち込みはお断りしています。携帯電話の電源も切りましょう。
- ・目白では、13×19cm以上のバックなどの持込はできません。お荷物は、ロッカーへ。必要なものは、図書館内専用の透明袋がありますので、そちらに移し変えてご利用ください。

☆ 図書館には、本しかないの？ → 実はいろいろあるんです。

- ・ブラウジングコーナー：新聞(当日の朝刊・昨日の夕刊・外国語の新聞など)や情報誌が置いてあります。『ぴあ』『オレンジページ』は、人気！
- ・閲覧室：ゆっくり読書の楽しめるスペース。もちろん、資料を使つてのレポート作成にもおすすめ。
- ・共同研究室(目白)・グループ研究室(西生田)：グループで学習・研究する時に。
- ・AVコーナー：ビデオ・カセットテープ・CDなどの再生ができます。図書館の資料だけでなく、持ち込みもOK！
- ・マイクロリーダー・プリンター：マイクロ資料も図書館の中で見れます。プリントアウトは、一枚10円。証紙にてお支払いください。



☆ **すばらしきかな、OPAC検索**

- ・たくさん蔵書があるのはいいけど、どうやってお目当ての資料を探したら……と、冷や汗者の貴女には、まず、OPAC (Online Public Access Catalog) によるコンピュータ検索をお勧めします。貸出状況までわかるんですよ。
- ・目白と西生田の2箇所図書館があるけど、私にはあっちの図書館は遠いわ……と、思い込んでる貴女にも、OPAC検索が強い見方になってくれます。二つの図書館は、オンラインで結ばれているのです。また、他館の蔵書は、取り寄せて利用することができます。
- ・注意！OPACで探せる資料は西生田地区の全蔵書、目白地区の1991年4月以降受け入れのもの及び、全洋雑誌です。1991年4月以前受け入れのものについては、順次データ入力中ですが、目白図書館のカード目録をご確認ください。
- ・図書館でゆっくり検索している時間がなーい！という方は、パソコンがインターネットに接続してあれば、ご自宅で図書館のHPにアクセスして検索することが可能です。(アドレスは、<http://www.lib.jwu.ac.jp>です。)開館日なども確認できます。

☆ **だれか、この迷路から私を連れ出して！**

- ・図書館に、資料があるのは分かった。でも…。大量の資料の前でボー然、パソコンの前で逆切れ、ああもう！どーして私は図書館が使えないの！パソコンのいじわるー！と心の中で絶叫してしまいそうになったら、(できればせっぱつまる前が望ましい)図書館員に一声おかけください。「こんな初歩的なこと聞けないわ」なんて思わずに。そう、聞かねば脅威の山積み散乱資料も、聞けば整理整頓美しい資料に大変身！…するかもしれない。

☆ **利用カードの交付と貸出規則**

- ・さて、めでたく目的の資料を手に入れた貴女は、さっそくカウンターで貸出の手続きを。その際には、図書館の利用カードが必要です。新入生の方は、オリエンテーション時に記入済みの登録票を回収していますので、学生証を持ってカウンターで利用カードの交付を受けてください。このカードは両図書館で利用でき、本人のみ有効です。図書予約や取り寄せにも必要になるので、必ず携帯して来館してください。
- ・貸出冊数は、身分によって異なりますので、利用案内をご確認を。貸出期間は1ヶ月です。
- ・注意！返却期限を過ぎると罰則があります。遅れた日数分、貸出停止となります。おそろしや、おそろしや。



はじめまして。私がこの図書館の看板ウサギ(?)です。利用カードにも利用案内にも私の姿があるのよ。ぜひ、私のカードを利用してね

いかがだったでしょうか？少しは図書館に親しみが湧いたでしょうか？新入生の方も、入学して？年たつけどカードすら持っていないという方も、どうぞ図書館へ足をお運びください。お待ちしております。(館員・閲覧係 橋本香織)



図書館（目白）からのお知らせ

入館システムを導入します

- ・平成14年4月より入館システムの機器を設置し、5月の連休明けあたりより運用を開始します。今まで図書の貸出の際には、図書館利用カードを必要としていたのと同様に、図書館に入館する際には、図書館利用カードが必要となりますので、お忘れなくご持参ください。まだこの図書館利用カードをお持ちでない学生の方は、2階カウンターで学生証を提示して交付を受けてください。

図書館（目白）の開館時間を延長します

- ・平成14年5月1日より学部の授業がある日の開館時間は、次のとおりとなります。
月曜日～金曜日 午前9時～午後8時
土曜日 午前9時～午後5時
 - ・月曜日～金曜日の午後7時から8時までは、2階・3階・4階の開館とし、1階（雑誌）フロアは従来どおり午後6時50分で閉室します。1階の資料を6時50分以降も閲覧したい場合は、1階カウンターで夜間貸出の手続きをして、2階フロアで午後8時まで閲覧できます。
 - ・目白祭前後など学部の授業がない日の開館時間については、従来どおりとします。
 - ・図書の貸出は、閉館15分前で終了となります。
- ### 2階・1階フロアのレイアウトが変更となりました
- ・2階と1階フロアのレイアウトが、平成14年3月に変更となりました。2階の目録カードケースは1階に移動し、2階に参考図書の書架を増設しました。

図書館（西生田）からのお知らせ

入館システムを導入します

- ・目白と同様に、平成14年4月より入館システムの機器を設置し、5月の連休明けあたりより運用を開始します。利用の方法は目白と同様ですので、まだこの図書館利用カードをお持ちでない学生の方は、カウンターで学生証を提示して交付を受けてください。

図書館（西生田）の開館時間を延長します

- ・平成14年5月1日より学部の授業がある土曜日の開館時間は、次のとおりとなります。
土曜日 午前9時10分～午後5時
- ・図書の貸出は、閉館15分前で終了となります。

図書館事務室より 平成13年の夏、文学部は百年館へ移転し、目白の図書館棟5階、6階は、6階の一部を除き、図書館へ移管されることとなった。現在、転用部分の図書館機能を可能とするための具体的な準備を進めている。平成14年3月には、図書館棟の新たな利用計画案に沿ってまず壁などの撤去工事が行われる。顧みれば、図書館の老朽化およびスペース面の窮状を報告書としてまとめ、新図書館建設までの必要な措置として、文学部研究室跡使用を要望したその日、平成9年7月30日から5年目である。百周年を記念しての特別展示は、その第2期に、図書館所蔵の貴重図書を紹介する機会をいただいた。このことにまず感謝し、また熱心にご観覧の多くの方々には心よりお礼を申し上げる。この企画は、図書館内設置の図書選定委員会が担当した。（上村）

編集後記 図書館の開館時間について、学生自治会からの要望を受けて検討を進め、今年度5月から開館時間を延長します。大いにご利用ください。西村圭子先生は、御定年退職前の図書館長を在任の頃、『女性群像』を執筆しておられました。その後に私も頂戴しました『女性群像』を、読み返して思い出しています。（田口）